

## 道東の中学校を訪問してきました！！

7月31日（日）～8月3日（水）まで、道東の中学校を訪問してきました。現在、遺愛女子高校に在籍している生徒の出身中学校を中心に、広尾、帯広、音更、池田、釧路、浜中、上風連、標津の中学校をまわりました。往復約1,600kmの車での旅でしたが、広大な北海道をあらためて肌で感じてきました。わざわざ遠い函館の遺愛に入学して高校生活をおくってくれていることに、心から有り難いと感じると同時に、その期待に応える教育を、しっかりとていねいにしていかねばと自戒しました。

日本の社会福祉の先駆者で、感化院（現在の児童自立支援施設）教育の実践家であった留岡幸助氏（1864－1934）という方がいらっしゃいました。同志社大学の神学部（新島襄から直接学び、徳富蘆花と仲が良かった）を卒業し、遠軽の北海道家庭学校を創設した方です。彼の日記（『留岡幸助日記』第1巻141頁）に、1891年（明治24年）9月末から10月にかけて道東を船と馬で旅した時の事が記されていました。10月8日（木）、天候の悪化のために、急遽、十勝の浦幌と釧路の間にある尺別駅に宿泊したところ、中村田鶴という若い女性と出会ったとのこと。彼女によると家族5人全員が刈り手で、兄が山の奥で牧畜を営み、妹が函館の遺愛女学校で学んでいると語っていたと書かれていました。遺愛女学校創設期に、十勝・釧路から、わざわざ函館の遺愛女学校に娘さんを入学させていたことがわかります。当時、函館には船で往復していたのでしょう。

2016年8月6日（土）



霧多布湿原



浜中町に住む同窓生が飼っているお馬さんと記念撮影。